

## 第 7 回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録【概要】

日 時 平成 28 年 12 月 14 日（火）17：30～18：45

場 所 津山市役所東庁舎 E 302 会議室

出席者

・津山市教育振興基本計画検討委員 9 名

委員長 松岡信義（美作大学短期大学部教授）

副委員長 松本浩之（津山市 P T A 連合会会長）

委 員 市村京子（津山市中学校長会）、小坂田昌平（津山市体育協会会長）、  
甲田敦三（津山市小学校長会長）、菅原良二（一般公募）、杉山明  
（津山工業高等専門学校教授）、塚本さつき（津山市立幼稚園長会長）  
福田邦夫（津山朝日新聞社代表取締役社長）

・事務局 教育長、教育委員会関係部課長、企画調整官、関係各課長等 17 名

### 1．開会

### 2．委員長あいさつ

### 3．議事

前回のご意見について

（事務局説明）

・津山市教育振興基本計画（第 2 期）（案）のご意見について（11/29 第 6 回会議より）を説明。

（委員）

・了承

全体を通してのご意見

（委員の意見）

・「就学に係るガイドブック」や、「実践ガイドブック」は作成されていると推測するが、それぞれ、先生用なのか保護者用なのか。進捗状況、あるいは中身について教えていただきたい。また、「実践ガイドブック」は、課題としては挙げられているが、今後の取り組みの中ではふれられていない。どのような状況なのか。

・「保・幼・認定こども園・小連携のための接続期を意識したアプローチカリキュラムを作成・実施します。」とある。県では、平成 30 年に全市町村において、全面実施していくと書かれている。どういように進めていこうと考えているのか、今どのような状態なのか。工程を教えてほしい。

・12ページ、確かな学力の向上の【課題】ポツ2つ目、「携帯電話及びスマートフォンの所持率の増加に伴い、…」これは、家庭学習の習慣をつけようと思ったら、生活習慣の改善も伴って取り組まないといけないと言われている。単なるスマートフォン、携帯電話のことにふれられてあるだけであるが、実のねらいは、「家庭の協力も得ながら学習習慣を確立します」ということが、課題だということをとらえないといけないのではないか。41ページ、確かな学力の向上【主な取組】「家庭学習の推進と生活リズムの定着」にタイアップするようなかたちで、課題を書いてほしい。

・「第5章 計画の実現に向けて」に、事業を推進する主体のあり方について、基本的なことを書いておくべきではないかと思う。

・総合教育会議で「大綱の策定や重要な政策について十分協議・調整を行います」とか、教育委員会、総務文教委員会にかけるとのことですが、そこで、基本計画は、加筆・修正ということが考えられる。総合計画や総合教育会議における大綱などの整合性とか、それぞれが抵触しないようには回避されると思う。計画素案がひっくりかえってしまわないように願う。

その他

今後のスケジュールについて

(事務局説明)

・皆さんにいただいた意見を集約した後に、12月定例教育委員会の方へ、原案として提出する。その後、市長部局の会議体への提出をする。政策会議や市長への報告を行った後に、パブリックコメントをする。2月の定例教育委員会にて最終決定をいただき、3月の市議会では、総務文教委員会の中で、報告させていただく予定です。

4．教育長あいさつ

5．閉会